

『商 經 論 叢』 総 目 次〔皇 第1号 (1952年) 至 第20号 (1971年)〕

第 1 号 (1952年)

原始土地法慣行序説	村 川 澄
最低賃銀制度論	松 下 武 二
無差別曲線の研究序説	児 玉 元 平
後入先出法について	熊 本 盾 雄
会計学上の資本の概念について	中 村 謙
文化研究の方法論について	前 野 東一郎
小売商業に於ける不完全競争	松 井 哲 夫

第 2 号 (1953年)

労務管理の回顧と展望	松 下 武 二
財務諸表の体系	熊 本 盾 雄
棚卸資産の評価について	中 村 謙
企業会計目的観再評価問題をめぐりて	中 野 英 男
W.G.コ克蘭著「標本調査技術」に於ける一つの問題点…	釜 場 一 郎
所得分配の変化に関する一考察	児 玉 元 平

第 3 号 (1954年)

農業協同組合会計における勘定の番号法について	中 野 英 男
所得成長率の変化について	児 玉 元 平
R・スルクセ「低開発国の資本形成問題」	松 井 哲 夫
近代的銀行の成立に関する若干の覚書	楯 岡 重 行
判 例 研 究	佐 伯 直 秀

第 4 号 (1955年)

歴史的経済学派における経済史研究の基本観照	池 田 照 彦
費用性と価値性	大 即 英 夫
スペインにおける農業諸団体	有 富 重 尋
低価主義評価損の表示について	熊 本 盾 雄
Wilkin 判事の「キケロと自然法」に就いて	佐 伯 直 秀

メキシコ労資関係	山崎俊夫
Identification の問題（その1）	釜場一郎

第 5 号 （1956年）

流れ作業組織の主観的統一	山崎俊夫
——藻利教授「工場管理」への方法論的考察——	
中世商業の経済的意義	池田照彦
退職給与引当金の考察	大即英夫
株主総会に於ける議決権の代理行使に就いて	佐伯直秀
棚卸資産の期末評価	熊本居雄
信用の本質	菅知彦
メスタ史序論（その1）	有富重尋
Identification の問題（その2）	釜場一郎
——線型模型の場合について——	

第 6 号 （1957年）

経営技術学試論（1）	山崎俊夫
株式譲渡の自由に就て	佐伯直秀
Identification の問題（その3）	釜場一郎
商業信用と手形割引	菅知彦
メスタ史序論（その2）	有富重尋
資本主義生成過程に於ける財政の意義＝本質	福丸馨一
Business Cost の本質について	大即英夫

第 7 号 （1958年）

池超波氏対張魁峰氏の矛盾論争	山崎俊夫
——生産力発展動力内因論と外因論——	
募集設立に於ける株式引受に就いて	佐伯直秀
——其の入社契約説への疑問を中心にして——	
市民革命と其の経済基礎	池田照彦
保蔵貨幣について	菅知彦
——ケインズの所説をめぐって——	
現代資本主義の「前向き性」と財政々策	福丸馨一

Identification の問題	釜 場 一 郎
——移動和過程の場合——	
スペイン絶対主義確立期の商業	有 富 重 尋
——穀類取引を中心として——	

第 8 号 (1959年)

両参一改運動の性格	山 崎 俊 夫
——その経営参加制度的側面——	
スペイン絶対主義確立期の商業 (Ⅱ)	有 富 重 尋
——穀物取引を中心として——	
特別利害関係人としての取締役	佐 伯 直 秀
——計算書類承認に際しての議決権行使の可・不能について——	
収支計算と動態論	大 即 英 夫
——シュマーレンバッハを中心として——	

第 9 号 ——開学10周年記念号—— (1960年)

オーストリア行政手続論序説 (Ⅲ)	尾 上 実
進法配当の返還義務について	佐 伯 直 秀
——商法第 290条第 2 項の株主には善意株主が含まれるか否か——	
同時方程式組織のParameterを単一方程式最小自乗法に よって推定した場合の「偏り」について (その I)	釜 場 一 郎
株式配当本質論	熊 本 雄
会計理論の展開	大 即 英 夫
リカルドにおける経済理論構造の若干の問題点	池 田 照 彦

第 10 号 (1961年)

独占利潤と中小企業	三 好 正 巳
マーシャルにおける古典派理論の方法論的反省について ...	池 田 照 彦
株主総会決議無効の主張について	佐 伯 直 秀
——訴提起以外の、他の方法によることが許されるか否か——	
財政学の「経済学化」に関する一考察	福 丸 馨 一
——ヒックス、コルムの所説を中心として——	
スペイン農業構造の基本的性格	有 富 重 尋

第 11 号 （1962年）

経済学への提議 (1)	友 岡 学
——基礎的諸概念の再検討——	
代位訴訟における，取締役の責任の範囲について	佐 伯 直 秀
中小工業論のための基礎的考察 (1)	三 好 正 巳
マックス・ウェーバー理解への一試論	池 田 照 彦
——その方法論的反省について——	
メスタ，その意義と役割について	有 富 重 尋

第 12 号 （1963年）

スペイン農業労働者の現状	有 富 重 尋
ドイツ・インフレーションの諸問題	福 丸 馨 一
——覚 書——	
価 値 と 市 場	友 岡 学
中小工業論のための基礎的考察 (3)	三 好 正 巳

第 13 号 （1964年）

“企業連合”についての覚書	三 好 正 巳
——ヒルフェーディングの所説を中心として——	
自己金融をめぐる若干の問題	永 井 統
——蓄積形態の展開——	
平和共存の思想と条件	友 岡 学
——その経済学的歴史学的接近——	
監査報告書における補足的説明事項について	高 田 駒次郎
商法第 254条第 2 項の立法趣旨について	佐 伯 直 秀
——資格株排除説の論拠について——	
利潤率の傾向的低落の法則の内的諸矛盾に関する一考察 (I) …	古 田 巖

第 14 号 ——開学15周年記念号—— （1965年）

商法における引当金の考察	熊 本 岳 雄
監査報告書における限定事項と説明事項について	高 田 駒次郎
——その 1，限定事項について——	

マーケティング論理解へのところみ	有 富 重 尋
——その展開と歴史——	
アメリカにおける会社財務の最近の動向と問題点	永 井 統
——株式買いもどしについて——	
産業構造論序説	三 好 正 巳
——再生産構造への中小資本の定置に関連して——	
企 業 と 利 潤	友 岡 学
議決権代理行使委任状の勧誘規則とその問題点に就いて	佐 伯 直 秀

第 15 号 (1966年)

損益計算書における総額主義の原則	熊 本 盾 雄
株式会社論ノート	三 好 正 巳
経済学における私有財産の問題	友 岡 学
財務諸表の適正表示性に対する監査人の意見表明について…	高 田 駒次郎
(その1)	
広告倫理についての一考察	高 向 嘉 昭
最近のアメリカ経済の景気動向	古 田 巖

第 16 号 (1967年)

国家独占資本主義のもとでの賃労働の一断面	三 好 正 巳
経済体制についての一考察	友 岡 学
税務会計の基盤構造分析	伊 伏 彰

第 17 号 (1968年)

原価計算と商的農業	伊 伏 彰
国と地方の間の法律関係	楠 元 茂
労働力と労務管理についての一考察	児 嶋 正 男
いわゆる「ポリシー・ミックス」の政策的意義と その衝撃メカニズムについて	橋 口 幸 夫

第 18 号 (1969年7月)

沖縄の財政問題(その二)	福 丸 馨 一
——「一体化」政策と市町村財政の現状——	

中小規模小売商の過剰化および過剰性に関する基礎的考察…	高 向 嘉 昭
行政上の苦情処理制度と Ombudsman 思想 ……………	楠 元 茂
企業内賃金管理変遷の一側面 ……………	児 嶋 正 男
——戦後紡績賃金形態の変更をめぐって——	
「二つの経済学」についての一試論 ……………	橋 口 幸 夫
——政策論の前提として——	
戦後わが国における独占資本究明の方法について ……………	一 井 昭
——一つの覚書——	

第 19 号 ——開学20周年記念号——（1971年3月）

論 文

所得分配の Widow's Cruse 効果について ……………	児 玉 元 平
科学・技術概念の一般化 ……………	友 岡 学
過疎問題ノート（I） ……………	福 丸 馨 一
——志布志町，笠沙町ほか予備調査から——	
戦後失業問題の一視角 ……………	三 好 正 巳
——戦後労働力政策と社会保障——	
日本資本主義再編成下の農業破壊と農民層の分解 ……………	橋 口 幸 夫
日本における流通問題 ……………	有 富 重 尋
企業会計原則修正案の性格 ……………	中 野 英 男
在高法と損益法 ……………	中 村 謙
継続性の原則について ……………	熊 本 盾 雄
大島機業の流通構造 ……………	高 向 嘉 昭
地域伝統産業の構造的特質 ……………	児 嶋 正 男
——大島紬の生産と労働（I）——	
地方における苦情処理制度と地方的 Ombudsman に関する一考察 ……………	楠 元 茂

翻 訳

プラント輸入で奨励を受ける経済行為と地域に 関するアルヘンチナ国政令 ……………	山 崎 俊 夫
A・シュルツ 情報経営論についての一考察 ……………	伊 伏 彰
K・ウィリアム・カップ 環境破壊と社会的費用 ……………	一 井 昭
——経済学への挑戦——	

第 20 号 —— 創刊20周年記念号 —— (1971年10月)

論 文

無償取得固定資産の評価	熊 本 厩 雄
沖縄の市町村財政に関する覚書(1)	福 丸 馨 一
——嘉手納村と糸満町——	
特別権力関係と裁量権の問題	楠 元 茂
——公務員・学生に対する不利益処分に関する最近の判例を中心に——	
産業構造変革と伝統産業(大島紬)	高 向 嘉 昭
地域伝統産業の構造的特質	児 嶋 正 男
——大島紬の生産と労働(2)——	
「都市と農村」問題についての一試論	橋 口 幸 夫
——実証論への前提的認識として——	
投資決定の最小収益率に関する一考察	伊 伏 彰
——A・シュテルバッハ所説の展開——	

資 料

鹿児島県の産業構造ノート(1)	一 井 昭
——階級構成と「剰余価値率」——	

判例研究

取締役の代行者に関する最近の最高裁判決	黒 瀬 文 平
---------------------------	---------